

秩父夜祭 祭礼区域・笠鉾屋台曳行図

曳行・行事案内 & 交通案内図

平成26年12月2日(火)・3日(水)

日本三大曳山祭

国指定重要無形民俗文化財

秩父夜祭

笠鉾・屋台は、国指定重要有形民俗文化財となっており、屋台行事と神楽も国指定重要無形民俗文化財となっております。

上町屋台 | 高さ約6.7m 重さ約13t



屋根は4台の屋台の中で最も大きい。軒の出も多く華やかな屋台である。牡丹に唐獅子の水引幕、鯉の滝昇りの後幕の刺繍も見事。

中町屋台 | 高さ約6.7m 重さ約14t



屋台の前後を飾る鬼板は、4台の屋台の中で最も大きい。その彫刻は、天の岩戸開きやスサノヲノミコの大蛇退治など日本神話を題材にしている。

中近笠鉾 | 高さ約5.5m 重さ約15t



総体黒漆で、随所に金具を打ち、鬼板、懸魚(けいご)、妻飾りなど多彩な彫刻を飾った宮殿風な構え。勾欄(こうらん)の丸彫金箔押の龍や内室の二十四孝の彫刻は見どころ。

本町屋台 | 高さ約6.5m 重さ約12t



彫刻や装飾など金箔押しの上に彩色をする贅を尽くした通りとなっている。後幕は玩具を積んだ宝船の刺繍が施され、中央のタリマが特徴的である。

下郷笠鉾 | 高さ約7m 重さ約20t



6基の笠鉾・屋台の中で最も大きく、重量もある。白木で仕上げられた本体に金の飾り金具が神々しさをかます。通常は中近笠鉾と共に笠をはずして曳き廻される。

宮地屋台 | 高さ約6.5m 重さ約12t



秩父祭屋台のうち最も古く、端正な姿をとどめている。後幕は、想像上の霊獣・狸狸(しやしよ)の水引幕は飛鶴の刺繍である。



見処のご案内

見処4

屋台曳き踊り

屋台町である宮地・上町・中町・本町の各町内ごとに街の辻や他町会前、秩父神社の神門前などに屋台を止めて、長閑の曲を演奏する地方と踊り手である立方により「曳き踊り」という所作事を奉納します。

見処5

屋台の後幕

4基の屋台は、後幕に施された刺繍も豪華で、それを見るのも一つの楽しみ方。「狸狸」や「鯉の滝昇り」、「波に海魚」「玩具宝船」と様々なテーマで飾られています。彫刻や水引幕なども各屋台によって違いがありますので必見です。

見処6

ギリ廻し

屋台や笠鉾の方向転換は、テコの応用で持ち上げて回転させる「ギリ廻し」と呼ばれる場面です。重さ数十トンの屋台・笠鉾が大きく傾き、「玉入れ」と呼ばれる小太鼓のリズムに合わせて方向転換します。

見処7

秩父神社神楽

秩父神社に伝わる神楽は「神代神楽」とも呼ばれ、高天原神話や出雲神話など古典神話を題材に、35座が伝えられています。特に秩父祭の神楽は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。夜祭の斎場祭で舞われる代参宮神楽は、古風な形式をこの時代代表的な舞といわれています。

見処8

御神幸行列

3日午後8時30分、神輿1基・御神馬2頭・大神等をはじめとする神幸行列が秩父神社から御旅所に向います。市内各町の高張供物行列に続き、午後7時位から中近、下郷、宮地、上町、中町、本町の順に笠鉾・屋台が神社行列に続いて御旅所へ向けて出発します。

見処9

亀の子石

秩父夜祭の斎場である御旅所には、秩父神社の女神・妙見菩薩の神使とされる亀(玄武)が祀られています。妙見様と武甲山の男神との逢瀬の大切な役割を担う玄武を、地元では親しみを込めて「亀の子石」と呼んでいます。

京都の祇園祭、飛騨の高山祭とともに日本三大曳山祭に数えられる秩父夜祭は、秩父の総社、秩父神社の例大祭で、300有余年の歴史を誇ります。巧みな技を極めた極彩色の彫刻や、金糸をあしらった後幕の刺繍などに彩られた、豪華絢爛な笠鉾・屋台が秩父屋台囃子の調べに乗り、冬の夜空を焦がす花火をバックに曳き廻される勇壮な祭りです。

秩父神社の女神妙見様と武甲山の男神が年に1度、御旅所で出逢うというロマンスも伝えられています。



お問い合わせ ■ 秩父まつり対策本部 ☎0494-25-5209 秩父夜祭観光祭実行委員会 ☎0494-21-2277